

ティエベレの壁塗りのレシピ

2012年3月下旬、ブルキナファソのカッセーナ地方の村に住むカイエおばあさんにティエベレの壁塗りを習いました。当時、私は大学で漆工を専攻する傍ら、大学のゼミで大学内に土づくりの家を建てていました。そのゼミの先生から雨季にブルキナファソへ行かれていたときのお話を聞き、ティエベレの家の壁画に惹かれ、乾季に行われる家作りをぜひ見たいと思いブルキナファソへ行きました。

ブルキナファソの家作りは、日中の気温が50℃近くなる暑い乾季に行われます。ティエベレでは日干しレンガ作り(写真①、②)や家を建てる



写真①日干しレンガを2ついっぺんに作れる木枠

ことは男性が行い、内部と外壁のコーティングをかねた壁塗りは女性が行っていました。水汲みは女性が行っていました。

壁塗りの最後にはマメ科の樹木であるネレの莢を煮出したエキスをかけます。これは、土壁が風雨で浸食されるのを防ぐ役割もあります。本来は、その家に住む女性と親戚の女性たちが集まって壁画を塗るそうですが、最近は集まって壁塗り



写真②結婚して住む家を作るためレンガを作る青年

をする文化が廃れてきたそうです。風雨などの浸食で消えてしまった壁画も多く、長期間壁画の黒い線を保たせるために、本来のバザルト（玄武岩の黒い顔料）ではなく、アスファルトを代用して描かれている壁もありました。壁塗りを教えてもらっていると、通りがかったおばさんが、「おーやってるねー」とニコニコと通り過ぎて行きました。

村のおばあさんたちは、自宅の壁画を描く風習がのこっていた世代で、その中の一人、カイエおばあさんに壁塗りを習いました。その際に感じた乾燥した空気の質感や、暑い中で大変な作業を楽しむ工夫、一緒に作ることで身体を通して理解した造形のできかたなどを、レシピとして記すことにしました。

カイエおばあさんの壁塗りのレシピ

[所要時間] 約3.5時間（まだ涼しい午前7時頃～午前10時半頃まで）

[壁塗りの速度] 2人で1日に塗った範囲は約90cm×190cm

[場所] カイエおばあさんの自宅の裏側

[材料] (写真③)

- ・水につけておいた牛糞 ばけつ1杯
- ・乾いた牛糞 1やま
- ・水 ばけつ1杯

- ・テライトの土 大きな洗面器1杯（壁の周辺にたくさん置いてある）(写真④)
- ・片面が平で表面がつるつるした石（手になじむもの）
- ・バザルト（フランス語で玄武岩。黒い玄武岩を細かく砕き、ふるいにかける）(写真⑤)
- ・干した粘りのある植物（オクラかモロヘイヤ?）を水につけたエキス(写真⑥)
- ・鳥の羽（筆として、長さ約18cm）
- ・カオリンと呼ばれる乾くと白くなる石
- ・ダバ（手鍬。落花生、ミレット、トウモロコシなどを栽培するときに用いる農具）
- ・ひょうたんをくり抜いて乾燥させたボール
- ・大きめの洗面器
- ・小さめの箒（ブルキナファソでよく箒として使われている、植物の穂を切りそろえ束ねたもの）
- ・ネレの莢(写真⑦)
- ・ネレの莢を煮出す小さな土鍋(写真⑧)

[作り方]

- ① ボールに水につけておいた牛糞と水を入れて、手で混ぜ合わせる。軽く混ぜた溶き卵くらいの粘度にする。手で混ぜながら、混ざりきらない牛糞の大きな繊維などを握りながら絞って捨てる（図①）。
- ② 地面の上で乾いた牛糞をダバで砕き、①と混ぜ合わせる。①を少しずつ加えさせて、山をつくってはそれを餅つくようにダバで崩し混ぜる。（写真①）手で壁に塗れるくらいに少し固めのドロドロ（固めのホットケーキの生地のようなかたさ）になるまでダバでまぜる。
- ③ ボールに②をうつし、手で混ぜながら、手に当たる砕けない小石を取り除く。水を少し足して練り、壁塗りを始める。手に一握り乗せ、下から上に手で押しつけて塗る。驚くほど滑らかに牛糞が壁にくいつく（写真②）。
- ④ その日に塗る面積が塗れたら、③に水を足して、クレープの生地くらいの固さにする。そして、もう一度さっき塗った層の上から③の要領で表面をきれいにするように、塗り重ねる。



写真③壁塗りの材料



写真④カイエおばあさんの家の裏



写真⑤バザルトを粉砕しふるいにかける



写真⑥粘りのある植物を水でもどす



写真⑦ネレの莢



写真⑧ネレの莢のエキスを煮出す



図①なめらかになるまで牛糞を水に溶く



写真⑨ダバ(手鋏)を使って土と溶いた牛糞をよく混ぜる



写真②手に乗せて下から上に擦りつけると、びたーっと塗れる 写真③ラテライトと牛糞を混ぜ、小石など手に当たれば取り除く



写真④気温が高く塗りつけた層がすぐ乾くので次の塗りに入る 写真⑤手になじむ小石を選ぶ 写真⑥小石でつるつるに磨く

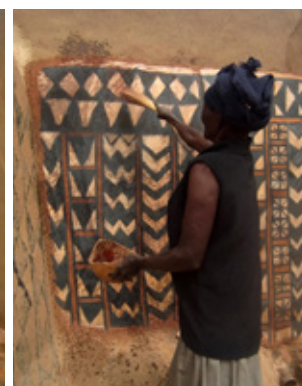


写真⑦色付けの材料と植物のエキスを混ぜる 写真⑧まず外側の枠を描き 写真⑨紋様を決めて少し塗り、次の紋様を考える



56

図②小石で磨く前に水をかける



写真⑩白い石(カオリン)でこすり磨く 写真⑪左が前日に作った壁画、右は白を描いている途中 写真⑫ネのエキスを帚でかける

- ⑤ 壁を落ち着かせ表面を乾かしている間、休憩をする。ここまで約20分。気温はすでに35℃以上、大気が乾燥しているため、すぐ乾きはじめます。
- ⑥ 次に大きめの洗面器で、ラテライトの土を②の要領でダバで砕きながら、水と合わせてドロドロにし(写真③)④の残り混ぜ合わせる(固さは②と④の間くらいの固さ)。③と同じように下から上に手で押しつけて塗る。カイエおばあちゃんのストロークは長い(写真④)。
- ⑦ 少し休憩しながら、塗り終わったオレンジの壁を乾かす。
- ⑧ 表面が少し乾いたら、ボールの水をバチャバチャと手でかけ、全体をぬらす(図②)。
- ⑨ 片面が平なつるつるした石で⑨の表面をこすり、ならす(写真⑤、⑥)。
- ⑩ ⑧・⑨をもう一度くり返す。乾かしている間に休憩。
- ⑪ バザルトと水、乾燥オクラを水につけたドロドロとしたエキス(写真⑦)を手で混ぜ合わせ、小石などを取り除く。
- ⑫ 羽を筆として、紋様を描いていきます。まず、枠になる線を引きます(写真⑧)。その中に紋様を描き、中を

黒く塗ります(写真⑨)。それを見ながら、次の段に何を描くか決めます。すらすらと次の紋様を考えて描いていきます(図③)。

- ⑬ 白にするところは、カオリン(白い石)で磨くように擦り付けていきます(写真⑩)。黒いところは⑨で使った石で磨きます。作業開始から約2時間経ち、気温も45℃近くと暑くなり、大変な作業です。このときカイエおばあちゃんは歌を歌いはじめました。しんどい作業を歌いながら、楽しい作業にかえてがんばります。
- ⑭ 休憩をしながら、湿り気を飛ばします。カオリンでこすった白い部分がグレーからはっきりした白色が出てくるまで、壁画を乾かします(写真⑪)。その間にネレの莢を煮出します(写真⑧)。濃い赤茶色の液体が煮出せたら、ボールにうつし、箒で壁にネレのエキスをかけます(写真⑫)。全体に赤いネレのエキスをかけたら完成!

カイエおばあさんが歌っていた歌の歌詞

- 1 アヨーアヨーアーヤーウェー
アヨーアヨーアーヤーウェー
ダーニーグル ティエベレ アーヤーウェー
ダーニーグル ティエベレ アーヤーウェー
(くり返す)
- 2 ウンヤローエ エウンヤローエー ガンバロ
(がんばろと聞こえた)
(時々挟み込まれるフレーズ)

1の繰り返しの中に2のフレーズが挟み込まれ、たとえば1、1、2、1、1、2、2、1、といった具合に歌われる。



図⑧ 紋様を羽で描く

描かれた紋様の意味

紋様にはそれぞれ意味があります。身近な日常生活のもの・ことを題材に、抽象化することで紋様が描かれていました。例えば、“N”のような紋様は鶏の足を表していて、足が速いので縁起がよい紋様とされています。その家に住んでいる人物に関わる紋様は、村の歴史に関わりのあることがらなどを、幾何学に落とし込む手法で記憶を記録し、描くことで伝える暗号のようでした。教わった意味と図を少し記します(図④)。

壁塗りをおえて

壁塗りでとても驚いたことは、牛糞の壁への食いつきのよさです。牛糞にはほどよく分解された植物の繊維がまじり、よくこねるとモチモチとしていて粘度があり、素手で壁にすりつけるだけで、びたーとくいつきます。日本では壁土用に土を長期間置きわざと醗酵させて使ったりしますが、食いつきがわるいこともあります。牛糞は臭みもなく万能な素材だと思いました。面白かったことは、人の身体で作られた建物は、人の身体がものさしとなって造形のラインを決めているところです。おばあさんが背伸びをしてギリギリとどくあたりの壁に段差があり、そのラインに沿って下に絵を描きました。壁画は2～3年で

風化するため塗り替えるそうで、以前の壁画の上から塗り重ねられます。そのため、下から塗れる範囲と、屋上から乗り出して塗る範囲の境界に段差ができます(写真④)。私はおばあさんよりも背が低かったので、おばあさんのラインに手が届かず、壁を支える下の膨らみの上によって作業しました。壁塗りは親戚の女性たちで行われますが、この家の壁画の基本サイズはおばあさんの手が届く、届かないが造形の境界を決めていて、壁塗りをすることで自然に身体のものさしを知ることができました。

白い石を擦って白を描き、黒とオレンジの面をつるつるした小石で磨く作業は大変ですが、この行程により壁の表面を磨き、凹凸をなくし強くしています。暑期中、地味で大変な作業のため、カイエおばあさんは歌を歌い、楽しい作業にしていました。私が大学で専攻していた漆工も、研ぐ磨く作業が一番大変な作業だったので、とても共感できました。大人数の女性たちが歌えば祭りのような楽しい作業になるでしょう。

壁塗りを習った後、おばあさんの家の室内も見せてもらいました。外よりも丁寧に描かれた壁画が多く、線彫り(絵のラインに沿って壁を彫ること、写真⑨)も施されていました。室内の壁画は風化ですぐに消えてしまわないことと、大切な日常の空間に描かれるため、紋様の配置も外よりも細かく、より気を配られていました。



ヒョウタンの器の欠けた部分を示す三角



ライオン 王をしめす



トカゲ (レリーフ)
穀物庫によくついている



タカラガイ good luck



ネレの葉



肩ひもをかけ脇に抱える太鼓



鶏の足 足が速い縁起物



へび (レリーフ)
ボアはよい意味
ダンゲロスはよくない意味



ソルガムの葉と稗



ダバ (手鋸)



杖 (レリーフ)
家に老人が住んでいる
ことをしめす



ブルキナファンで
よく用いられる箒



手を繋いで握手している



ゲリというゴルフに似た
ゲーム



コウモリ



亀



頭の傷跡



マクラビ
若い女の子が住んでいる



亡くなった方が履く下着



写真⑨室内、キッチン天井からさす光



写真⑩室内（重ねた甕かめは食器や収納に使う）

天井に穿たれた穴からの光がスポットライトのように壁画を浮かび上がらせていました。またその中にキッチンや寝台などがありました。壁画と生活がまるで一枚の布に包まれているように、境界線がゆるやかな状態で混ざり合っていました。それは、住人や関わりのある人達の身体によって、身のまわりの素材や泥を媒体にしてつくられた造形であり、身体をものさしとして建物、壁画を建築されているからです。そして壁画に描かれるのは、何代にもわたり続く目の前の日常から生まれた紋様でした。このレシピを使ってぜひティエベレの壁塗りに挑戦してください。

前田菜月



写真⑪玄関



写真②カイエおばあさんとお家

61



写真③屋根から全体をみると入りこんでいて迷路のよう



写真⑭バオバブの木の上に置かれた穀物の程



写真⑮ポーの街の市場はとても色鮮やか



図⑥カイエおばあさんたちのお家